

第1回 夏の市民まつり有識者会議 会議録要旨（敬称略）

日時：令和3年8月17日（火）14時00分～15時10分

場所：豊川市役所 防災センター1階 市民研修室

出席者：豊川市 産業環境部長 鈴木 敏彰

豊川市観光協会 専務理事兼事務局長 平賀 菜由美

豊川市連区長会長 細井 勉

豊川市商店街連盟 会長 渡辺 稔明

ひまわり農業協同組合 総合企画部長 溝口 隆文

一般社団法人 豊川青年会議所 理事長 大石 宗弘

豊川市交通安全指導隊 隊長 宮田 憲司

陸上自衛隊豊川駐屯地 司令職務室長 北村 家一

オブザーバー：愛知県豊川警察署 生活安全課 保安係警部補 後藤 正明

豊川市消防本部 予防課主幹 茂木 伸能

事務局：商工観光課長始め商工観光課職員3名

豊川市観光協会 統括マネージャー 鈴木 一寛

欠席者：豊川商工会議所 専務理事 長谷川 完一郎（代理 村上 幸治）

一宮商工会 事務局長 豊田 雅章

公益社団法人 豊川文化協会 専務理事 田中 邦宏（代理 原田 潔）

1 市長あいさつ

2 議事

（1）豊川手筒まつりの実績等

（事務局）資料（1）説明

（会長）

・ただいまの説明について、要綱にもありますとおり、以前の手筒まつりの後継となる新しい夏まつりということで、まずは、手筒まつりの総括という意味でお示しましたが、ご意見・質問ございましたらお願いします。

・まつりに関わっていただいた方は、総勢で1,065人です。大変、多くの方が関わってお祭りができるということと、予算の収支の概算ですが、観覧席の売り上げより、協賛金550件で2,100万円いただいていたということで、本当に大きなご理解、ご協力があったり成り立っていた、ということを思いました。よろしいでしょうか。

⇒ 質問、意見はなし。

（2）豊川手筒まつりの課題

（事務局）資料（2）説明

（会長）

- ・ただいま、『豊川手筒まつりの課題』ということで、あくまで平成31年1月28日の豊川手筒まつりの今後の開催方針として、豊川市民まつり協議会・豊川手筒まつり実行委員会の連名で出されたものの要約でございます。これに関しまして、ご意見ございませんか。
- ・私から、会場の問題ということで「野球場では会場が狭く、出入口の制限がある」ということですが、もう少し具体的にこの辺の状況を。

(事務局)

- ・野球場での開催場所としましては、集客人数9万人前後のイベントに対して会場自体が狭く、また、出入口については、メインゲートが1箇所のみとなっております。通常であれば運営できている状況なのですが、何らかの事故やゲリラ豪雨等、緊急時に会場から避難する必要が生じた場合は、どうしてもメインゲート1箇所に観客が集中することが予想されます。このメインゲートは幅が4mほどありまして、集中した場合にはスムーズに移動ができるほどの広さがなく、どうしても制限がかかってしまうため、何かあった場合に野球場での安全上の問題があるという判断をされたものです。

(会長)

- ・はい。わかりました。

(会員)

- ・会場の問題のところですが、自分は交通指導隊に入って40年近く、昭和63年から警備にあたっていたので、確か野球場と陸上競技場を2つ使っていたような、自分の思い過ごしかわからないんですが、仕掛け花火を陸上競技場、打ち上げを野球場というふうにできれば、ある程度、狭いとかの問題が解決するかもしれませんが、陸上競技場は何で使えないのか？若しくは、両方は使えないのか？

(事務局)

- ・陸上競技場は平成23年から第3種競技場の公認を取るよう新しく整備され、施設を痛めてはいけないということで、花火とか施設が痛む可能性があるイベントに関しては、基本的には利用できないこととなっており、それ以降、陸上競技場全般が立ち入り禁止となっており、使わないようなかたちで開催をしている状況です。

(会員)

- ・野球場もいろんなことで中を整備していたので、そうすると、野球場も使用できない可能性も出てくるのではないかと。

(事務局)

- ・野球場は施設の整備状況に対して競技場のように使用禁止という制限はありませんでしたが、会場としてはちょっと狭い、という問題があるということです。

(会長)

- ・過去に、2つの会場を何らかのかたちで補完し合いながら使っていた、という経緯もあるのでしょうか？

(会員)

- ・過去、手筒まつりの主担当でしたので、質問にお答えします。平成22年まではメイン会

場が陸上競技場で、陸上競技場の芝生と土の境目の半円のところで手筒をやり、陸上競技場の柵沿いに仕掛けの枠組みを立て、さらにその隣の野球場で打ち上げをやっていた時がありました。この頃は、打ち上げの距離が近かったものですから、小さい打ち上げ花火でもそれなりに迫力がありました。あと、陸上競技場は出入り口が野球場よりも広く大きい部分がありましたので、先ほど申し上げた緊急対応の時にも、ある程度誘導は可能なかな、というのが当時の見解、判断ということでした。

(会長)

- ・陸上競技場を使えないのか、というご意見でしたが、もし、またここで再開となれば、利用できるか、できないかが大きな課題になると思いますので、後の議題で掘り下げていきたいと思います。今は、教育委員会等の要望があって利用を差し控えていた、そういう状況です。他にいかがでしょうか。

(会員)

- ・こちらに挙げられた3点の課題は、まだコロナ禍の前の状況であったかと思います。現在、コロナの影響により非常に悪い状況ということで、特に多くの夏まつりだとかイベント事が、コロナの影響で中止あるいは縮小、延期になっていますので、多くの人を集めてやるお祭りが必要なのかどうか、こういった祭りを開催するにしても、今までのやり方をかなり変えていかなければならないのかな、ということでコロナ対応というのも十分に考えていくべき事かなと思います。

(会長)

- ・ありがとうございます。こちらの資料でまとめている課題は、平成31年1月の開催方針の抜粋ということで、新たな課題というのは入れておりませんので、他に何かご意見等がございますでしょうか。

⇒ 質問、意見はなし。

(3) 関係担当者による課題に対する検討について

(事務局) 資料(3) 説明

(会長)

- ・議題(3)について、特に今後検討が必要な事項として、3つの項目でまとめております。会場の問題、実施体制・実施主体の問題、あとイベントの内容、特に連区負担だとか今までの方法を踏まえて、引き継ぎながらも新たなまつりを検討していきたい、という3点がございました。ご意見等ございましたらお願いします。
- ・(1)の会場に関しては、条件として5項目が上がっております。いろいろ各地等見渡した現状のなかで、④公共交通機関の利便性、⑤駐車場の確保を充たせるのは、やはり現在地の場所が最有力かなと思うのですが、一応事務局もそちらの方向で検討を進めていきたい、ということよろしいでしょうか。

(事務局)

- ・はい。

(会長)

- ・駐車場は企業にもご協力いただいておりますが、合計で何台くらい確保できたのですか？

(事務局)

- ・会場の東側、免許センター、自衛隊グラウンド、西側、日本車両など借りて合計で2,780台、そのうち無料の駐車場は2,100台ほど、プリオの有料駐車場は600台ほどです。

(会長)

- ・よろしければ、総括も含めて感想のようなことでも結構ですので、ご意見をお願いします。

(会員)

- ・先ほどご意見の方にもありましたが、これからのイベント、まつりのやり方が数年はコロナウイルスに対応するかたちで変化をしていく必要があるなかで、費用もかかるかもしれないが、ちょっと長期的なスパンで分散した開催、または時間を短くする工夫も必要という課題、それからアンケートの結果が市民の皆様方の本音だと思うんです。豊橋が6月に夜店をやっている、豊川の子供たちも結構、行かれてるっていう話を聞きますから、夜の物産、またグルメっていうのは非常に求められている。また豊川市は手筒花火が3月から10月、いろんな各神社さんでやられていて、とても素晴らしい伝統的なものがあるなか、この手筒花火を、どのくらいの内容で皆様にお見せしたらよいか、手筒花火ばかりでは無く、新しいかたちの夏まつりというものも工夫が必要ではないかと。打ち上げ花火やプロジェクションマッピングのような、音や光といった新しいものを皆さんが求めているのではないかと、今までのものは少し置いておいて、まったく新しい内容のものを検討することも価値があるのでは、と思っております。

(会員)

- ・最後に行われた令和元年当時、何故やめるんだろう、またやっていただいたらいいな、という声もたくさん上がっていたこともご承知のことと思うんですけど、ただコロナ禍でやり方は変えなきゃいけないなということ、また、場所的に市街地で花火を上げることが一つ大きな問題ということもありますが、伝統的な手筒まつりに関しては、東三河、また豊川でのひとつの大きなシンボリックなお祭りになる、というのは全国的にかなり皆さんに知っていただいているところだと思いますから、なんとかこの火を消さないようにうまく調整しながら、また新しい形に残しながらやればというふうに思います。

(会員)

- ・要綱の設置の目的のところ、市民の連帯感の醸成と伝統文化の承継、産業・観光の振興の3つがあって、このバランスをとると、ブレやすく尖ったようなイベント・お祭りにはならないというところがある。市内の人たちは、手筒をやっている町内の人しか基本的には揚げられないという現状があり、やりたい時には町内のお祭りに参加をしなければならなくなると、手筒以外のことも手伝わなくてはならなくて結構ハードルが高い。今の延長線上のような手筒まつりを考えるのであれば、一般市民の方が手筒をやれる替わり何か月も前から工程と一緒にやり、煙火の講習を受け、そして煙火のお披露目の場にする、

というのは、何かひとつ新たな層の獲得ではないですけれども、もしかしたら全国から人を呼ぶのかもしれない、ただ、それなりの事をやらなければいけない、っていうことがありますし、連区の負担というのもあったので、そういった組織を作ってやっていくこともできるのかな、と思います。④公共交通機関の利便性、⑤駐車場の確保のところを考え、現状の場所しかできないということになった時、打ち上げ花火は保安距離の問題で、大きな花火は上げられないと聞いています。豊川で大きい花火が見られないのか、と豊川市民として思うところで、大きい花火こそこういう市民まつりでないと、むしろ豊川では上げられないので、そういったところで考えられないのか。場所ありきになると、現在の延長線のところをどう工夫するかという議論になるが、もっと大きい花火を見ようという事になれば、また違う発想になってくる。どういったものをつくっていくか、というビジョンは次の回になると思いますが、現状の場所ありきで考えていくのであれば、それを明確にしていかなければいけないと思いますし、そうでなければ、どんな規模感でとか、誰を対象にとか、どんなところから人がきてほしいか、そういうところを議論していく必要があると思います。

(会員)

- ・自分は交通指導隊ということで、警備、信号に立ちますので、車や駐車場とかをどこに持っていかというのがあり、昔、B1グランプリをやった時も、けっこう遠い場所に停めて、送迎バスを使いましたので、そうすればある程度、車とか駐車場を軽減でき、お祭りに来る人にも、そう危なくないかと。各隊員には、なるべく警備に協力してもらえるようにやりますけども、やっぱり皆の希望もあるだろうし、自分たちでやりやすいようにもっていきたいと考えています。

(会員)

- ・32回開催したなかで、数回ほど事故がありました。放揚者が怪我をなさる、また、火の粉等々が観客席に飛び込んで観客の方が怪我をされた事もありますし、周辺地区の会社や民家に打ち上げ花火のカス等が落ちて、製品や屋根等にご迷惑をおかけしたという事もありました。最初にはあまり課題にならなかつた主催者責任というのが、兵庫県の明石市で行われた花火大会を契機に問われるようになり、その後福知山で起きたような花火大会でも主催者責任が厳しく問われた事があり、主催者責任が増大していきますと商工会議所では運用が難しいという事、プラス昨今ゲリラ豪雨というのが言われるようになり、実際には隅田川の花火大会ですとか、お祭りの途中からゲリラ豪雨の影響で中止せざるを得なくなったということもあり、そうした突然降ってわいたような課題にも対応しなければならぬ事もあり、一旦区切ることになりましたが、先程来、課題にありましたとおり、市民まつり協議会でなかなか解決が難しかった課題を、新しくまつりができることで、その課題が新しいやり方でクリアされて、市民の方が楽しんでいただけるようなイベントに、商工会議所としましても協賛金等々の募集にはご協力させていただきたいと考えていますので、いっしょに解決に向けた提案をしていきたいと思っております。

(会員)

- 皆さんのお話を聞いて、手筒花火にこだわるのであれば、やっぱりその野球場では無理だろう、場所を変える必要があるんじゃないかなと。ではどこの場所かというのは次の課題ですけど、私の勝手な考えですが、いろいろ考えてもやっぱり御津の海岸の方になるのかと。手筒花火を無くして他の催しというのであれば、市民のアンケートでのグルメだとか、打ち上げ花火とか物産。また打ち上げ花火も保安距離が問題になってきますので、多分、陸上自衛隊のグラウンドを借りて上げるとか、近隣の市、新城、豊橋、蒲郡ということを考えても、打ち上げ花火がメインになっていますので、そういうのも聞いていろいろ考えてやったらどうか、と思います。例えば、青森のねぶた祭、徳島の阿波踊りを呼んだらどうか、昼間だったら大きな物産店をやるとか、プロジェクションマッピングとか、いろいろ催しをやって夏祭りを盛大にやったらどうか、と思っています。

(会員)

- なかなか難しい課題かな、と思いますけども、皆さんのご意見をお聞きしていると、花火も手筒で良いのかもしれないですけど、自分は手筒にこだわる必要があるのかな、と思ったりもします。アンケート結果をみても、グルメ、打ち上げ花火、物産なんかも出ておりますし、新しい時代に即したということもありますので、ちょっと視点を変えて企画ができれば良いんじゃないかな、と思います。

(会員)

- 今まで10万人近くの人を集めた祭りですけども、今後はたくさん集めてやるばかりが良いというふうには思っておりません。特に最近ですと、飲食もやり花火もあり踊りもありショーもあり、何もかも集めて10万人規模でやるというのは、事故のことも考えると、厳しいのではないかと。やるのであれば、例えば場所も含めて分散開催だとか、時期をひとつずつ分けて、もう少し小規模にやるのも一つかと思えます。大勢を集めてやると、費用もですけどリスクもかかりますので、今後同じようなかたちの大規模イベントをやるのはなかなか難しいと思います。ここに課題がいろいろありますけど、自分のところで最終責任をとってやっていこうというのは、なかなか難しいと思いますので、やるにしてもやはり豊川市が主体となってやる方が良いのでは、と思っています。やるにはゼロから出発ということで、あれもこれも盛り込むとなかなか大変ですので、花火なら花火、飲食なら飲食に特化するとか、少し規模を縮小して専門化して、時期も少し分散して、やれるところからやっていく、それも現実的かと。そう言った事も検討していく必要があると思います。

(会員)

- 私どもも今いろいろなイベントを控えている状況です。しかし、やっぱりコロナが引き続きどこまで影響してくるのか、市長のほうから令和5年夏ごろにというお話があったので、それまで期間はあるようで、実際、今から新しく祭りをすると、私は時間がもうないのかな、と思いました。会場の検討とか、条件が満たされる場所ということで、いろいろと今後検討するところがあると思います。何をやっていくか決めてから、会場、交通網、どういう人を呼んでどういうふうにやりたいか、しっかりと決めて考えていかないと、最終的にゴールするところが間違ったところに行ってしまうかもしれませんので、し

っかりとこの段階で方向性を作って検討していけば、問題を解決して何とかやっていけると思っています。私どもも協力していきますので、よろしくお願いします。

(オブザーバー)

- ・警察としては各種事故の防止、そういったことを懸念していますので、火薬の事故、交通事故、一番はやっぱり明石のような雑踏事故、こういった事がないようにやっていただきたいというところなんです。どういうことをどの場所でやるか、ある程度の計画を見て、安全上どういう事が考えられるか、というところを示していけたらと考えておりますので、今後お話聞けたらと思います。

(オブザーバー)

- ・花火の保安距離の話が出ましたが、一番最後の手筒まつりで上げた保安距離としては、スターマインで100メートル、中国煙火で50メートル、仕掛けで20メートル、それと手筒で30メートルとっていました。当然、号数、大きさ、火薬の量に応じて保安距離が決まりますので、それに見合った保安距離をとっていただくんですけども、先ほど出ました60センチを超えて90センチ以下、いわゆる30号玉というのがありますが、それですと保安距離が半径460メートルとなります。それと、露店を行った場合、火気の取り扱いの注意も十分していただきたいと思っております。

(会長)

- ・会員の皆さん、オブザーバーの方含めましてご意見ありがとうございます。場所について、いろいろ多様なご意見いただきました。消防の方からも保安距離についてご説明をいただき、やはりなんでもどこでも出来るわけではありませぬので、その辺とスペースとを勘案して、よりよい場所を導き出していききたいと思っております。案としてはやはり集客力ですとか駐車場のキャパと含めて、今の諏訪地区の陸上競技場周辺が有力であるとお示しました。ご意見いただきながら、課題ということで再度整理してまいりたいと思っております。また、新しい要素をいれるべき、とのご意見をいただいております。大変ありがたい、貴重なご意見だと思っておりますが、本会議の設置要綱にも、伝統文化の承継ということで、手筒の承継も大きな柱ともしていますので、その辺を踏まえての検討をしていきたいと思っております。また、この課題については、事務局の方で再度掘り下げて、理解につなげていきたいと思っております。

(4) 今後のスケジュール・協議事項について

(事務局) 資料(4) 説明

(会長)

- ・ただいまの件につきまして、ご意見ご質問はございますでしょうか。

⇒ 質問、意見はなし。

- ・ございませんので、以上で本日の予定は終了いたしました。ご協力のほうありがとうございます。

(事務局) 事務連絡